

アステラス R & Dミーティング

～ 日本発グローバルメガへの挑戦～

2005年7月6日
アステラス製薬株式会社



注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定及び考えに基づきなされたものであります。実際の成果は、さまざまな要素によりこれら業績見通し、開発見通し等とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社既存及び新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

医薬品(開発中の物を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

アステラス R & Dミーティング

R&Dと本社機能

2005年7月6日

代表取締役副社長 田村隼也



本日の発表

Research: 柳澤本部長

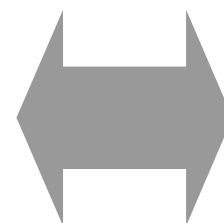
Development: 清水本部長

R: 組織・機能と推進体制
重点研究領域
研究戦略
研究アライアンス

D: 組織・機能と推進体制
Project 優先順位
主要Projectの進捗

本社機能:

製品戦略部
ライセンス部
事業開発部
知的財産部



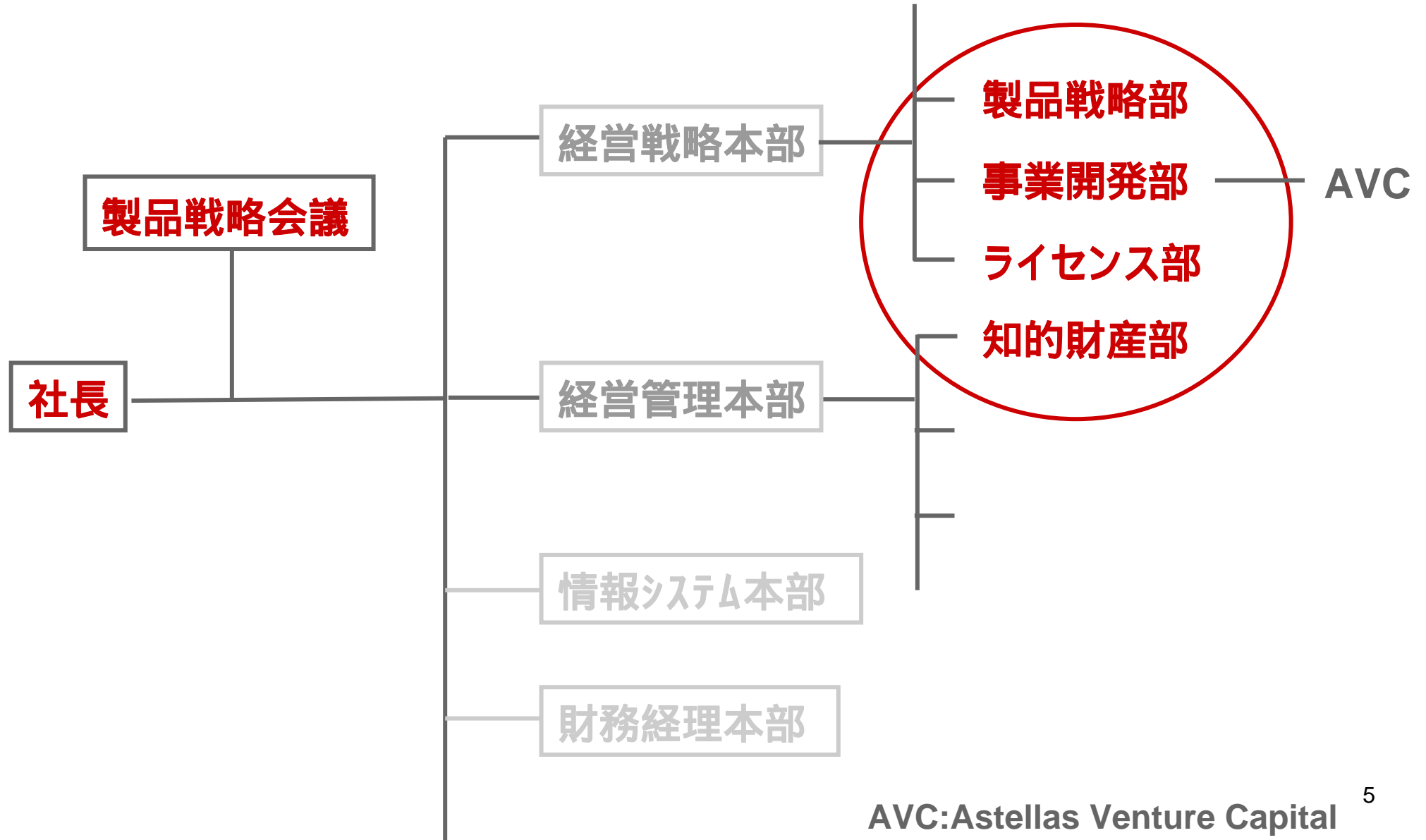
協働

[営業部門]
-国内・外市場ニーズ

[信頼性保証部門]
-薬事、品質、PV

[技術部門]
-プロセス化学
-創剤(DDS技術)
-製剤技術

R&D関連本社組織



- 各種アライアンス探索、交渉
- 個別化合物 導出・導入交渉
- 評価： 科学、ビジネス
- 製品戦略：疾患領域戦略、製品ポートフォリオ管理
- 特許戦略：出願/特許取得、知的財産の保護
- ベンチャーキャピタル管理：
投資会社数 7社(2005.6)

既存パイプライン / シャドーパイプライン -日・欧・米-



上市	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013 -
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------

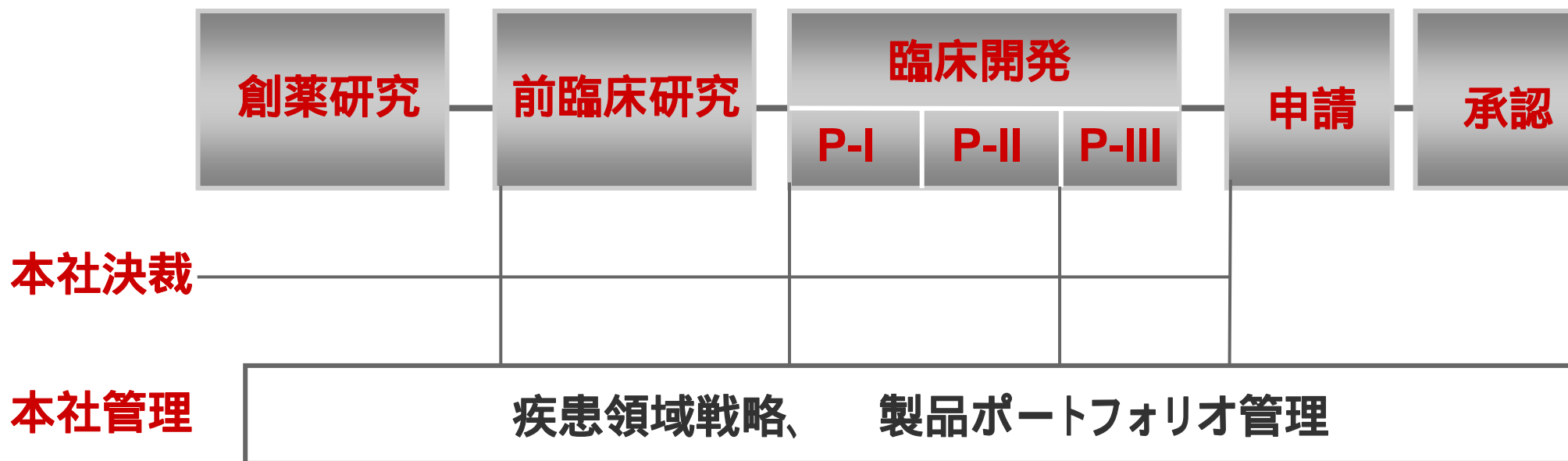
上市	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013 -
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------



R&D関連 意思決定システム

- 各本部で決裁
- 本社「製品戦略会議」で決裁

(1)各プロジェクト推進(含む LCM:ライフサイクルマネジメント)



(2)化合物 導入・導出、事業提携: 本社決裁

1. 職務発明制度

- 制度の主旨：発明の奨励と改正特許法35条(職務発明)への対応
制度設計に際しては従業員との協議実施
納得性のある補償額を設定
- 制度の内容：職務発明は会社が承継
出願時の補償額を設定
実施時の補償額に上限を設けない(売上又はライセンス収入に
一定率を乗じて算出)

2. 開発報奨制度

- 対象者： 新薬の研究開発・上市に貢献したグループ従業員(発明者を除く)
- 対象製品：自社品のほか、導入品、剤形追加・効能追加、導出品
- 報奨額： 発売から5年度目売上に一定率を乗じて算出。上限は設けない
- 報奨単位： 欧州、米国、アジアの3極。各極での売上に応じて実施

【成果指標】

一定期間毎の [上市製品数] × [製品の質]
(自社製品/導入品、 NME/LCM)

【プロセス指標】

1. 創薬研究における新規標的分子の数
2. 創薬研究から臨床開発化合物発見までの期間
3. 臨床開発化合物(NME)の数
4. 承認申請製品の数
5. 承認獲得の成功確率
6. 各種アライアンス(研究標的、技術、導入/導出、アウトソーシング)